

付録

シンポジウム「大学院における共通的教育—これまでとこれから」

(筑波大学大学研究センター 第 53 回公開研究会)

主催

筑波大学大学研究センター、筑波大学大学院共通科目委員会

日時

2011 年 12 月 22 日(木)

13 時 30 分～17 時 30 分

会場

筑波大学 筑波キャンパス 大学会館国際会議室

東京キャンパス文京校舎 134 大講義室(テレビ会議システムにより配信)

開催の趣旨

「大学院教育の実質化」は伝統的な大学院像、博士像に変革を求めました。対応策の一つが大学院における共通的教育であり、筑波大学では 2008 年度に「大学院共通科目」がスタートしました。研究科、専攻による専門教育以外に、大学院生に対して全学的な教育を提供する試みは、いくつかの大学で先行的に開始されました。2008 年には、分野を越えた大学院教育を実践しつつあった大阪大学、早稲田大学、九州大学、筑波大学が集まり、大学院の共通的教育の意義について意見交換をしました。

最近では、分野を越えた大学院教育は国際的、国内的に関心を集めています。Nature は本年 4 月に世界の博士問題の特集で、大学院教育の改革を訴えるとともに、人材育成目標の多角化(キャリアパスの多様化)、分野を超えた育成の必要性、コミュニケーションやチームワークをはじめとする多面的な能力開発の必要性を訴えています。国内でも「グローバル社会の大学院教育」(答申)、「第 2 次大学院教育振興施策要綱」が発表され、国際性など新しい改革目標への調和が求められています。

このような状況の中で、これまで発展してきた大学院の共通的教育をどのようなものへと改革し、どのような役割を担わせるべきでしょうか。本シンポジウムでは、これまでの取組みを振り返るとともに、直面する課題、今後の方向性などを議論します。

プログラム

(敬称略。所属等はシンポジウム開催時点のもの)

開催趣旨

第一部 各大学の取り組み—過去、現在、未来

「大阪大学大学院での高度な学び—副専攻教育」 中西浩（大阪大学学際融合教育研究センター）

「大学院における共通的教育」 佐藤拓朗（早稲田大学大学院国際情報通信研究科）

「大学院での共通基盤教育の補完的有用性」 岡本秀穂（元・九州大学高等教育開発推進センター）

「大学院共通科目の取組」 白岩善博（筑波大学 大学院共通科目委員会委員長）

「大学院共通科目の取組～検討開始からの5年間～」 小林信一（筑波大学 大学院共通科目委員会副委員長）

第二部 多様な視点から

「学生交流学際融合教育セミナーに参加して」 鈴木美慧（筑波大学生物学類）

「大学院共通科目を受講して」 古田島知則（筑波大学生命環境科学研究科）

「国際交渉力強化プログラム」 坪井美樹（筑波大学 国際交渉力強化プログラム統括長）

「博士教育の世界的動向～移転可能スキルのトレーニング～」 齋藤芳子（名古屋大学 高等教育研究センター）

「筑波大学における大学院共通科目の再検討」 池田潤（筑波大学人文社会系教授・教育企画室員）

第三部 パネルディスカッション「大学院における共通的教育のこれから」

（パネリスト）

中西浩（大阪大学）

岡本秀穂（元・九州大学）

齋藤芳子（名古屋大学）

白岩善博（筑波大学）

池田潤（筑波大学）

（進行）

小林信一（筑波大学）